

令和3年度 学校評価計画書

加賀市立片山津中学校

校長 山下 悟

令和3年度 学校評価	
評価の項目	①教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	各教科担当が宿題の点検を丁寧に行い、1時間程度かかる学年にあった学習課題を継続して用意する。家庭学習の習慣化を目指し、各種たより、懇談会などの場を通して、家庭における過ごし方（時間の使い方）を含め、保護者の協力を求める。
担当	教務主任・各教科代表
現状及び取組状況	学習意欲が身につけている生徒と身につけていない生徒の二極化傾向にある。全体でも家庭学習の時間が少ない。
評価の観点	(成果指標) 家庭での学習が習慣化した生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	生(22)「家庭での学習時間が1時間以上の生徒」が平均で、 A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	学習・生活アンケート（生徒(22)）の平均がDの場合は、課題の内容を再検討する。

評価の項目	①教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	生徒の実態を把握し、学び合いに加え、振り返り活動を大切にされた学習形態に変える等の工夫をして、各教科の目標や指導の重点を確認し、それに向けて努力する。また、授業のエバーサルデザイン化および授業規律の徹底と定着を継続する。
担当	研究主任・教務主任
現状及び取組状況	生徒の実態に応じた指導法を工夫し、片中スタンダードを徹底してきているが、振り返り学習を意識して取り組む必要がある。
評価の観点	(成果指標) 授業が分かりやすく、学習意欲が向上した。
実現状況の達成度判断基準	保(8)「お子さんは授業が分かりやすいと言っている」の平均が、 A 80%以上になった B 70%以上になった C 60%以上になった D 60%未満であった
判定基準（備考）	学校評価アンケート（保護者⑧）の平均がDの場合は、指導法を再検討する。（生徒(17)の項目も参考にする）

評価の項目	②生徒指導 ※いじめの未然防止
今年度の重点目標	情報の共有から行動実践へとつながる生徒指導体制を確立する。
具体的取組	「生徒指導委員会・各学年会」や「いじめ問題対策チーム」から情報を共有し、行動実践をスムーズに行うための報・連・相を確立する。また指導体制を確立するために事例検討会(いじめ対応アドバイザー)や校内研修等を行い、日々の体制の確認をする。
担当	生徒指導主事(生徒指導委員会)
現状及び取組状況	情報の共有から行動実践へとスムーズにつながるようになってきている。
評価の観点	(成果指標) 情報の共有がなされていたか。 情報の共有から行動実践につながったか。
実現状況の達成度判断基準	教(21)「問題行動時の組織的対応の体制が整っている」の平均が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満
判定基準(備考)	教職員アンケート(教師(21))の平均が70%未満の場合は、方法・内容を再検討する。

評価の項目	③キャリア教育・進路指導
今年度の重点目標	系統的な指導と、自分の将来を考えた進路選択をする能力・態度を育成する。
具体的取組	全校に向けた進路だよりを計画的に発行し、様々な情報を適切な時期に伝えていく。また、道徳、特活、総合的な学習の時間を中心に全教育活動を通してキャリア教育を行うための全体計画を作成し、3年間を見通した指導を推進していく。
担当	進路指導主事・各学年進路担当
現状及び取組状況	1年生での「地域の人からお話を聞く会」と職業調べ、2年生での職場体験活動、3年生での体験入学や進路学習会を中心に進路指導を行っている。
評価の観点	(成果指標) 職場体験や体験入学を通して自分の将来について考える生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	生(3)「将来の夢や目標を持っている」の平均が、 A 85%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準(備考)	学習・生活アンケート(生徒(3))の平均が70%未満のとき、指導体系・方法を再検討する。

評価の項目	④保健管理
今年度の重点目標	基本的な生活習慣を定着させる。特に歯や口の健康づくりや睡眠時間の改善を図る。
具体的取組	生徒保健委員会の活動で、正しい生活習慣に関する知識を広めたり、母親委員会との協力で家庭との連携を考えていく。また、学校保健委員会等で家庭・地域と情報を共有し、基本的な生活習慣の定着につなげる。
担当	保健主事
現状及び取組状況	むし歯の治療率は年々高まってきているが、春の検診で再びむし歯になっている生徒が多い。またTV・ゲーム・ネットなどで睡眠時間が少なく体の不調を訴える生徒がいる。
評価の観点	(成果指標) むし歯の治療率が向上したか。
実現状況の達成度判断基準	歯科検診でむし歯があった生徒の治療率が、 A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準 (備考)	むし歯治療済みカードの回収率。 治療率が80%未満のときは、取り組み方を検討する。

評価の項目	⑤安全管理
今年度の重点目標	防災時や救命救急など、緊急時の対応ができるようにする。
具体的取組	危機管理の校内研修を行い、安全管理意識の向上に努める。 養護教諭と連携し、アクションカードを用いた実践を行う。
担当	教頭・防災安全担当
現状及び取組状況	危機管理マニュアル・防災マニュアル等はあるが、個人の担当部署や緊急時の対応の仕方が周知されていない。
評価の観点	(成果指標) 安全講習会や避難訓練、防災機器の研修会等を受け、災害時の行動マニュアルを理解したか。
実現状況の達成度判断基準	教(26)「職員が災害行動マニュアルを実践できた」のab合計が、 A 85%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準 (備考)	教職員アンケート(教師(26))のabの合計が70%未満のとき、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑥特別支援教育
今年度の重点目標	校内委員会を月に一回程度開催し、情報交換や生徒理解に努め、個々に応じた効果的な支援について検討する。
具体的取組	校内委員会や研修会を通して、全教職員で共通理解を図る。学年会や生徒指導委員会、特別支援教育支援員、SC、専門相談員等と連携してより具体的に個々の支援の方法、内容、変容効果について検証し、実践していく。
担当	特別支援コーディネーター（生徒支援委員会）
現状及び取組状況	事例検討会や校内研修会を開催し、支援の方法を検討している。
評価の観点	（成果指標）生徒は学校が楽しいと感じているか。
実現状況の達成度判断基準	生(18)「学校に行くのは楽しいと思う」のabの合計が、 A 90%以上の場合 B 85%以上の場合 C 80%以上の場合 D 80%未満の場合
判定基準（備考）	学習・生活アンケート（生徒(18)）のabの合計がC・Dのとき、原因を分析し、次年度の取組を検討する。

評価の項目	⑦組織運営・業務改善
今年度の重点目標	全職員が学校運営参画意識を高め、分掌の平準化と多忙感・負担感の軽減に努める。働き方改革にむけ業務改善をさらに進める。
具体的取組	職員の縦と横の連携を適切に行い、職員一人一人の学校運営参画意識を向上させる。働き方改革の意識を高め、勤務時間と部活動時間の管理を適切に行い、超勤削減とワークライフバランスの実現を図る。
担当	教頭・各主任
現状及び取組状況	働き方改革を意識しながら業務を行っているが、思ったほどの超過勤務時間の削減に至っていない。
評価の観点	（成果指標）勤務時間を意識し、働き方改革が行えているか。
実現状況の達成度判断基準	職員の超過勤務時間の平均 80 時間以下の人数が A 80%以上の場合 B 70%以上の場合 C 60%以上の場合 D 60%未満の場合
判定基準（備考）	C・Dのとき、原因を分析し、次年度の校務分掌や業務内容を検討する。

評価の項目	⑧研修
今年度の重点目標	思考力・判断力・表現力を育て、学力の向上を目指す。
具体的取組	思考力・判断力・表現力の育成及び学力の向上を図るために、各教科・領域・学年で工夫している内容を提案授業、研究授業、互見授業から学び合い、授業改善につなげる。若プロにも授業改善を目的とした研修を積極的に行っていく。
担当	研究主任
現状及び取組状況	教科の枠を越えた授業研究、互見授業を実施している。
評価の観点	(成果指標) 思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりができたか。
実現状況の達成度判断基準	生(20)「授業中自分の考えを表現している」の ab の合計が A 75%以上の場合 B 70%以上の場合 C 65%以上の場合 D 65%未満の場合
判定基準 (備考)	C・D のとき、原因を分析し、次年度の研修内容を検討する。

評価の項目	⑨保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からのお便りが確実に保護者に渡るように呼び掛けていく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	HPだけでなく、メール配信で学校の状況を伝えていく。HPやメール配信等の内容の充実を図っていく。
評価の観点	(成果指標) 担当者を中心に、充実したHPの更新ができていたか。また、メール配信が適宜・適切に行われていたか。
実現状況の達成度判断基準	保(1)「学校だよりやHP等で学校の様子がわかる」の ab 合計が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準 (備考)	保護者アンケート (保護者(1)) の合計が 80%未満のとき、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑨保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校の情報公開を充実させ、保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報を保護者に知らせるためにメール配信を活用し、全員のメール配信登録を目指す。学校からのお便りが確実に保護者に渡るように呼び掛けていく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	保護者との連絡を密にして早期にかつ親身な対応を図る。また、小中連携を行い、連携を深めていく。
評価の観点	(成果指標) 個人懇談や保護者懇談を適切に実施し、家庭との連携を充実したものにできたか。
実現状況の達成度判断基準	保(2)「学校は家庭への連絡を細かく行っている」のab合計が A 70%以上の場合 B 60%以上の場合 C 50%以上の場合 D 50%未満の場合
判定基準(備考)	保護者アンケート(保護者(2))の合計が60%未満のとき、方法・内容について再検討する。

評価の項目	⑩教育環境整備
今年度の重点目標	安全点検を行い、施設設備等の不備を早期発見し修理・修繕していく。
具体的取組	掲示担当者を明確にし、適切な掲示計画をもとに各学級・廊下の掲示物の充実を図る。安全点検により改善状況を適切に把握し、市とも協議した上で早急な対応を実施する。職員で修理可能なところは随時修理していく。
担当	教頭・営繕修理担当者
現状及び取組状況	定期的に安全点検を実施し、修理等が必要な箇所は早急に直し、自校での修理が難しいものは市教委にお願いしている。
評価の観点	(成果指標) 安全点検等を確実にを行い、施設設備の状況を把握し、不備があれば自分たちで修理していく。
実現状況の達成度判断基準	教(28)「施設設備の点検・整備・修繕を行った」のabの合計が A 90%以上の場合 B 80%以上の場合 C 70%以上の場合 D 70%未満の場合
判定基準(備考)	教職員アンケート(教師(28))のabの合計が90%未満のとき、方法・内容について再検討する。

